

## II 油糧種子

### 1 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

< 米国農務省（USDA）の見通し >

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 —

・ 米国等で減少するも、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回る見込み。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 —

・ 中国等で増加の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 —

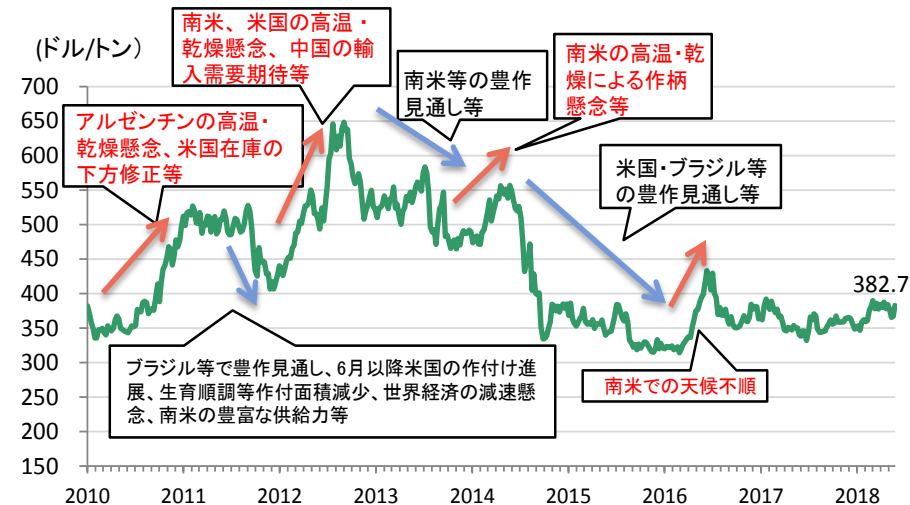
・ 米国等で増加の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 —

(単位: 百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	350.34	336.70	354.54	-	5.3
消費量	329.12	342.29	357.72	-	4.5
うち搾油用	287.81	299.39	313.34	-	4.7
輸 出 量	147.54	151.26	161.82	-	7.0
期末在庫量	96.39	92.16	86.70	-	▲ 5.9
期末在庫率	29.3%	26.9%	24.2%	-	▲ 2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」



注：シカゴ商品取引所による2018年5月29日までの毎週金曜日の期近価格である。

(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、5月27日時点で作付けは、約8割終了しており、前年度と比較して、早く進展している。また、史上最高を記録した前年度と比べ、収穫面積が減少することから、生産量は減少の見込み。

【需給状況】消費量は、搾油需要ともに、前年度並みである。

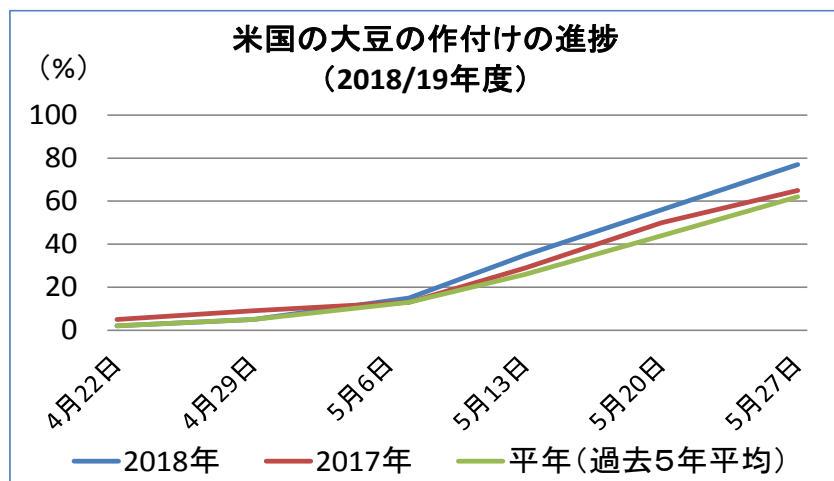
【貿易情報・その他】USDAによると、2018/19年度の輸出用は、前年度と10%増加の62.3百万トンの見込み。主要輸出先国の中国とは、5月半ばに通商摩擦の回避に向けた合意をしており、一定の中国向け輸出が見込まれる。

大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	114.1	119.5	116.5	-	▲ 2.5
消費量	55.5	57.8	58.0	-	0.3
うち搾油用	51.7	54.2	54.3	-	0.3
輸 出 量	59.2	56.2	62.3	-	10.9
輸 入 量	0.6	0.7	0.7	-	-
期末在庫量	8.2	14.4	11.3	-	▲ 21.8
期末在庫率	7.2%	12.7%	9.4%	-	▲ 3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.47	36.23	35.69		▲ 1.5
単収(t/ha)	3.49	3.30	3.26		▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(May 2018)



資料：USDA「Crop progress」(2018.5.27)

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社（CONAB）によると、2017/18年度の収穫が3月に概ね終了。同年度の作付面積は、2016/17年度に比べて、3.5%増加の見込みである。生産量もそれに応じて増加し、史上最高となる見込み。

地域別には、南部パラナ州等では降雨量が少なかったが、既に収穫が終了していたため、その影響は少ない。また、主産地である中西部マトグロッソ州では、好天に恵まれ、大幅に生産量が増加したことから、収量予測は前月より増加。

【需要状況】米国農務省（USDA）によると、2018/19年度の搾油需要は、前年並の見通し。

【貿易情報・その他】主たる輸出先は、アジア地域である。USDAによると、中国の大豆需要の高まりにより、中国向け輸出の増加が見込まれる。

国内で、5月下旬に発生したトラック運転手のストライキは、5月末には妥結に至った模様である。ブラジルの穀物輸送、とりわけ大豆については、米国と異なり、トラック輸送に依存するところが大きく、コスト上昇の要因になりやすいことから、注視する必要がある。

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	114.1	117.0	117.0 (116.5)	-	-
消費量	44.3	46.5	46.8 (…)	-	0.6
うち搾油用	40.9	43.0	43.2 (43.6)	-	0.5
輸 出 量	63.1	73.3	72.3 (73.1)	-	▲ 1.4
輸 入 量	0.3	0.2	0.4 (…)	-	100.0
期末在庫量	25.5	22.9	21.2 (26.0)	-	▲ 7.3
期末在庫率	23.7%	19.1%	17.8% (0.3%)	-	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.90	35.10	36.50 (35.09)	-	4.0
単収(t/ha)	3.37	3.37	3.21 (3.32)	-	▲ 4.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(May 2018)  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(May 2018)

ブラジルのクロープカレンダー

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2017/18年度	2017年												2018年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオグランデス州等 播種 5.08 (百万ha)												収穫 26.3 (百万t) → 生産量 夏冬計 89.21								
冬とうもろこし	← 播種面積夏冬計 16.65												播種 11.56 → 収穫 62.9								
大豆	マトグロッソ州、パラナ州等 播種 35.10												↑ 早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種 収穫 117.0								

資料: CONAB 2018年5月

## < カナダ >

【生育・生産状況】アメリカ農務省（USDA）によると、収穫面積は、前年度より減少し、7.8 百万ヘクタールの見込み。これは、小麦と比べ大豆の収益性が低いと見られているためである。主産地のオンタリオ州、ケベック州では、土壌水分が潤沢で作付けが進展するも、西部マニトバ州等では、乾燥による土壌水分不足から、作付けが遅延傾向である。

【需要状況】米国農務省（USDA）によると、消費量は、前年度並みの見通し。カナダ農務農産食品省（AAFC）によると、2018/19 年度大豆の平均生産者価格は、415 カナダドル/トン～455 カナダドル/トンと予測され、前年度比で低下。国際市場において、米国産価格がカナダ産価格よりも低く、その値下げ圧力を受けているためとみられる。

### 参考 カナダのなたね

AAFC の 4 月報告によると、なたねの作付面積は、前年度と比較して 4.5%増加の 9.73 百万ヘクタールになる見込み。増加の要因は、他の作物と比べて、収入面で魅力があること等である。また、生産量は、前年度比 2%増加の 21.7 百万トンの見込み。ここ数年、単収が減少しているが、作付面積の拡大で補われたことになる。輸出量は、前年度より 4%増加の 12.0 百万トンの見込み。

## < アルゼンチン >

【生育・生産状況】今年 2 月の干ばつの影響で、収穫量が大幅に減少する見込み。4 月末からの大雨の影響で収穫が更に遅れ、未収穫分の大豆の品質にも影響する見込み。

【需要状況】米国農務省（USDA）によると、2017/18 年度は、前年度と比較して、生産量が減少し消費量を下回る見込み。主要な販売先は、国内の搾油産業であり、アルゼンチン搾油連合（CIARA）によると、搾油加工能力は年間約 45 百万トンである。

【貿易情報・その他】2017/18 年度は、生産量の減少により、輸出量も減少の見込み。同国は、バイオディーゼル用に搾油し、主として、大豆かすを輸出している。

## 大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	8.0	7.8 (8.1)	-	▲ 2.5
消費量	2.5	2.6	2.6 (2.4)	-	1.0
うち搾油用	2.0	2.0	2.0 (…)	-	-
輸出量	3.3	3.3	3.3 (6.0)	-	▲ 2.4
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	-
期末在庫量	0.3	0.6	0.5 (0.3)	-	▲ 22.9
期末在庫率	4.7%	10.6%	8.3% (3.9%)	-	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.90	2.74 (2.98)	-	▲ 5.5
単収(t/ha)	2.96	2.76	2.85 (2.72)	-	3.3

資料: USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、 「PS&D」 (May 2018)  
AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (April 2018)

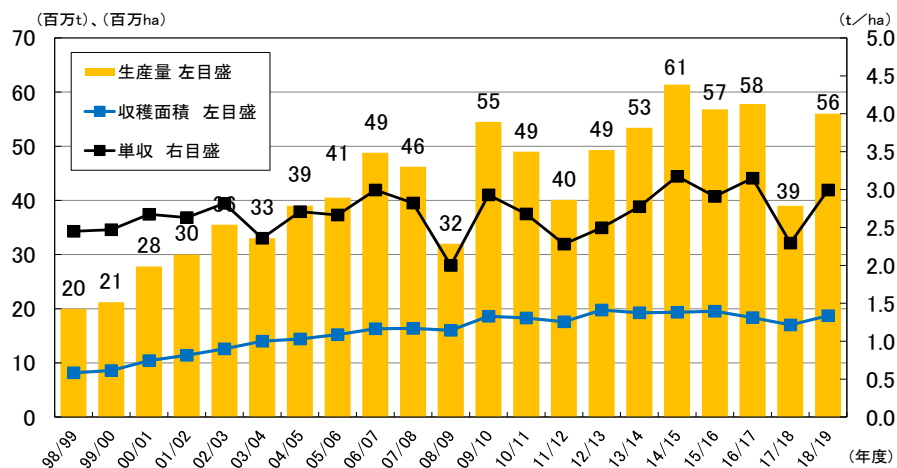
## 大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	57.8	39.0	56.0 (37.0)	-	43.6
消費量	47.8	45.4	48.9 (…)	-	7.9
うち搾油用	43.3	40.7	44.0 (38.2)	-	8.0
輸出量	7.0	4.2	8.0 (4.2)	-	90.5
輸入量	1.7	3.1	1.9 (…)	-	▲ 40.3
期末在庫量	36.2	28.8	29.7 (25.3)	-	3.2
期末在庫率	66.1%	58.1%	52.1% (…)	-	▲ 5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.35	17.00	18.70 (16.40)	-	10.0
単収(t/ha)	3.15	2.29	2.99 (2.26)	-	30.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」 (May 2018)  
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」 (May 2018)

## アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2018.5.10) をもとに農林水産省で作成

## < 中国 >

【生産・生育状況】5月には主産地の黒龍江省で作付けが順調に開始された。中国政府による「強農惠农」政策により、遼寧、吉林、黒竜江、内モンゴルを対象とした生産者補助が、とうもろこしと比べ高水準であることから、大豆への生産シフトが起こるとみられる。

【需要状況】オイルワールドによると、養豚産業の低迷により養豚用の需要は低下しているが、養鶏用および養魚用の需要は、増加している。

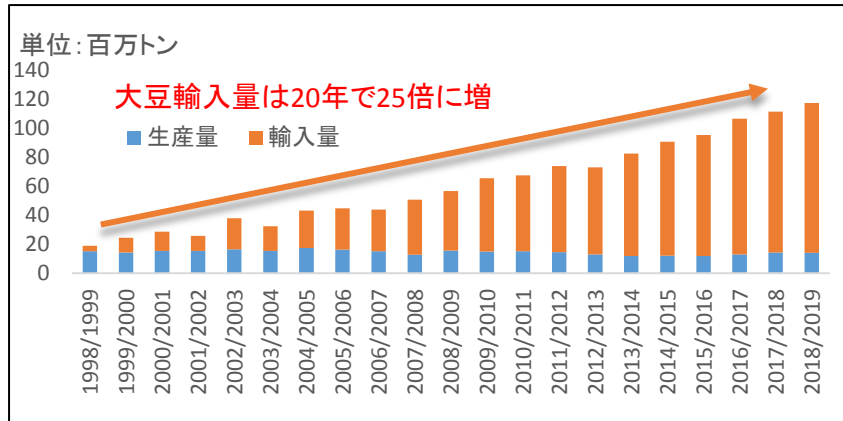
## 大豆—中国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	12.9	14.2	14.1 (16.7)	-	▲ 0.7
消費量	102.8	110.8	118.4 (…)	-	6.9
うち搾油用	88.0	95.0	102.0 (94.8)	-	7.4
輸 出 量	0.1	0.2	0.2 (…)	-	-
輸 入 量	93.5	97.0	103.0 (90.5)	-	6.2
期末在庫量	20.4	20.6	19.2 (…)	-	▲ 7.0
期末在庫率	19.8%	18.6%	16.2% (…)	-	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.85	7.85 (8.11)	-	-
単収(t/ha)	1.79	1.81	1.80 (2.05)	-	▲ 0.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(May 2018)  
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(May 2018)

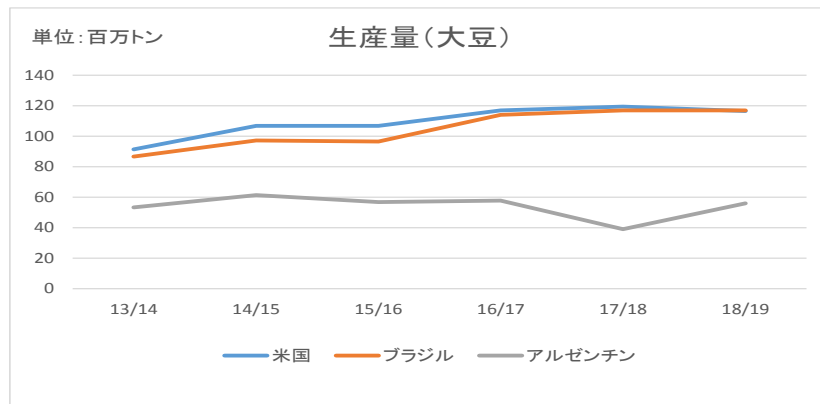
## 中国の大豆の生産量と輸入量の推移



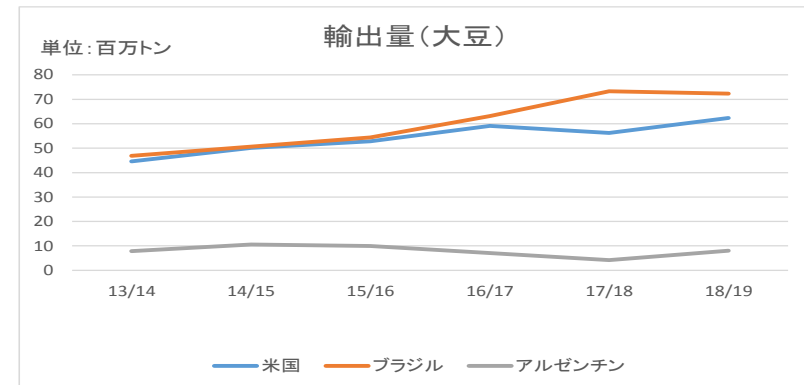
資料: USDA 「PS&D」(2018.5.10) をもとに農林水産省で作成

## (参考情報) 米国・ブラジル・アルゼンチンの大豆の生産量と輸出量の推移

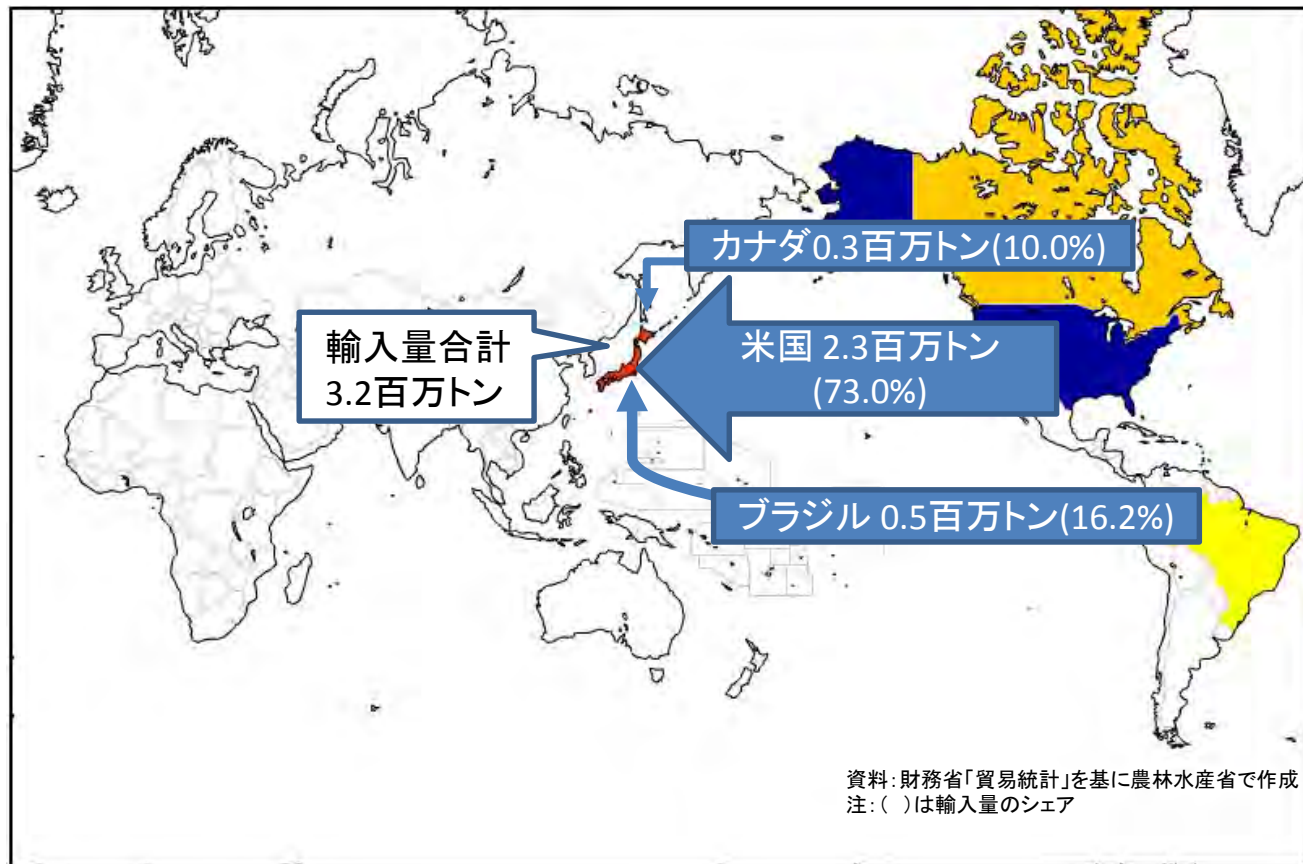
世界における主要な大豆生産国の動向を見ると、ブラジルが米国に代わり、世界最大の輸出国へ成長していることが分かる。なお、アルゼンチンは大豆ではなく、搾油後の大豆かすを主に輸出している。



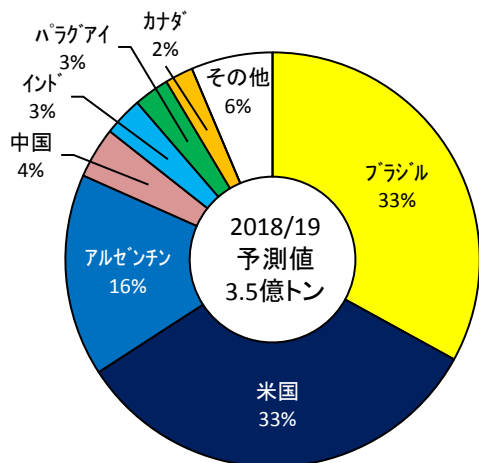
資料: USDA 「PS&D」(2018.5.10) をもとに農林水産省で作成



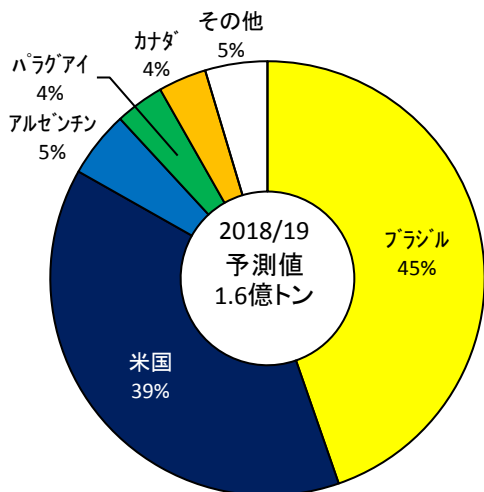
日本の国別大豆輸入量(2017年)



世界の大豆生産量



世界の大豆輸出量



<参考>世界の大豆輸入国(2018/19)

-世界の6割以上を中国が輸入-



日本の大豆生産量

2015年:0.24百万トン  
2016年:0.24百万トン  
2017年:0.25百万トン  
(資料:農林水産統計)

## 【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2018年5月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

### 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。



<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。  
農林水産省 海外食料需給レポート

[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p><b>連絡先</b>      <b>農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室</b> <b>TEL：03-3502-8111 (内線 3805)</b></p>
---